

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	水環境における省資源・省エネの定量的評価手法検討小委員会	主 査 名：小瀬 博之 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：西川 豊宏
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水、排水、給湯、衛生器具、排水再利用等の給排水衛生設備における節水・省エネ等の効果を分析し、企画・設計・施工・改修の建築における各段階において、どの程度の効果があるのかを検討する。</li> <li>・ 水環境分野における省資源・省エネに考慮した機器・器具・システムなどを、定量的に評価する手法を開発する。</li> <li>・ 建築物に応じた給排水衛生設備の節水器具・省エネ機器・環境配慮システム等の事例調査を行う。</li> <li>・ 建築物に応じた給排水衛生設備の節水器具・省エネ機器・環境配慮システム等の省資源・省エネ効果の分析</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：小瀬博之 (東洋大学)、幹事：中野民雄 (静岡文化芸術大学)、委員：小澤諭 (日建設計)、西川豊宏 (工学院大学)、樋口佳樹 (日本工業大学)、藤沼央子 (ベターリビング)、結城晶博 (TOTO)、渡光次郎 (LIXIL)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2016 年度予算	36,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s21/water">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s21/water</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	なし
委員会活動の問題点 ・ 課題	なし

## 2016 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A <b>B</b> C      D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>省資源・省エネに関する評価方法の検討の端緒として、建築分野や他の分野における評価方法の事例、また、水環境をはじめとする省資源・省エネが考慮されている建築物の事例数を多く収集することができた。</p> <p>しかし、水環境における省資源・省エネを定量的に分析・評価する手法が十分に検討されていないこと、また、建築物における水環境のシステムを評価する上で必要となる、上下水道のエネルギー原単位や雨水利用の地域ごとにポテンシャルが異なるデータの取り扱いの方法や基礎データの収集ができていないことから、これまで2年間の総合評価を「B」とした。</p> <p>本小委員会が目標とする水環境における省資源・省エネの定量的評価手法は、設計者や施主が、水環境におけるこれらの検討を行う際の用いることができる程度のレベルを想定しており、精度の高い評価よりも、複数のシステムを点数化により簡易に比較できるようにできるもの、また、ビジュアルに表示できるものを考えている。</p> <p>残りの2年間において手法の考え方をまとめ、建築物における水環境の省資源・省エネの推進に寄与する成果を得たい。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。